nagomi

札　幌　組　報

なごみ

2022年03月31日
第60号
浄土真宗本願寺派北海道教区
札幌組実践運動委員会
事務局
札幌組 HP
https://www.onishi.or.jp

今だからこそ取り組むべきことを

札幌組内ご寺院はじめ、門信徒の皆様にはお念仏御相続の日々をお過ごしいただいていますこと心よりお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症により多くのお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。

早いもので二期目の組長を拝命し二年が過ぎ、折り返しとなりました。コロナ感染症の拡大や緊急事態宣言などの規制により、感染予防対策のため連研や各組織教化団体は、集まって研修を開催することが出来ず、停滞せざるを得ない状況が続いております。各寺院活動でも自粛を余儀なくされ、法要行事では時間短縮、規模縮小などの対応に追われ、月忌や法事も縮小し、寺院運営も大変な2年間でした。

組の寺院問題検討委員会では、このご時世にどう儀式儀礼を通して、み教えを伝えていけるか、議論を重ね『提言書』を制作し組内全寺院より賛同いただきました。そして今年度は各葬儀社へ共通認識を持っていただくために、この提言書を送付し、葬送儀礼の大切さを共に学び共有していくことをお願いしています。先ずは私たちも学び直し、大切な葬送儀礼に対して真摯に向き合い、組内各寺院が協力し現代社会の中で、どう、み教えを伝えていくか、考えていかなければならないと思います。

世界では、平和の象徴である五輪とパラリンピックの最中にロシア軍によるウクライナへの侵攻が始まり激しさを増し、日々難民が増え続けています。日本では自然災害が後を絶たず、コロナ禍も波があり終息には至っておりません。そして貧富の差が一層増し、貧困が益々進み物価の上昇は進むばかりです。

今、そんな地域社会の中でお寺の役割とは何でしょうか。宗教法人としてあるべき姿と、今できることを考え、一層社会に受け入れられる寺院・僧侶を目指していかなければ、み教えも伝わっていかないのではと思います。先ずは『心豊かに生きることの出来る社会への実現』に向かって、各寺院でできることから 取り組んでいきましょう。そしてそれを札幌組で情報共有し、組の実践運動を活発化し、札幌都市圏で後世に受け継ぐ基盤を構築していきたいと思います。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の大法要も目前となりました。札幌組としても今だからこそ出来るご法要を考えていきたいと思います。どうか皆様のご理解とご協力、そして忌憚ないご意見をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

合掌

眞願寺でも「子どもの笑顔のための募金」に加え「ウクライナ緊急支援募金」と「おすそわけBOX」を春の彼岸よりはじめ、門信徒皆様よりご協力をいただいています。

御同朋の社会を目指す運動
（実践運動）委員会委員長
札幌組 組長
石堂 了正（眞願寺）

樺太アイヌ墓前法要6月19日

６月第３土曜日は墓前法要の日となっています。樺太強制移住殉難者墓前法要が６月１９日土曜日午後２時より江別市対雁にある市営墓地「やすらぎ苑」の「対雁の碑」にて修行されました。

コロナ禍の中、まして緊急事態宣言が発令されていることもあり、遺族及び実行委員の皆様、札幌別院輪番・教務所長沙々木学海師、随員、眞願寺関係者の少人数で行われました。

明治８年、千島樺太交換条約の締結によって、樺太に住まわれていた　１０８戸　８４１名の方々がこの対雁の地に移住を強いられました。その後この地方で１８８６年より１８８７年（明治１９年より２０年）にかけて、天然痘やコレラなどが大流行しました。そして集団生活を強いられてきた方々は、たちまちに伝染し、全住民の半数近くの方々が、亡くなりました。国と国の領土問題が発端となり、強制的に移住せられ、慣れない土地で集団生活を強いられ、犠牲となられていったのです。

「対雁の碑」は、北海道を御巡教中であった本願寺第２２世宗主明如上人に碑字下付を願い出られ、御染筆『乗佛本願生彼國』の七字が刻まれ、１８９０年（明治 23 年）１１月に眞願寺境内に建てられました。

法要自体は４２回目となりますが、この碑も老朽化が進んでいますので、是非きちんと後世に受け継げるべき改修をしていただきたいと思います。そして多くの方が集われて、真の平和を願う法要が再開されればと思います。札幌組からも毎年ご仏前がお供えされ、社会部の方が参拝されています。皆様も是非ご参詣ください。詳しくは眞願寺様まで。

札幌組オンラインしゃべり場を開催

「札幌組オンラインしゃべり場」を７月 30 日午後８時より Zoom で開催しました。「密を避ける」ことを前提として、いままでに開催したことがない企画となりました。

コロナ禍で日常が大きく変わり、お寺の活動にも変化を求められる状況の中、各寺院の取り組み、感染予防対策、月参り、葬儀の現状を共有し、それぞれの取り組みを参考にする場になることを目的としました。

オンライン上で顔合わせ後、組長の挨拶、トークルームに分かれての情報交換、雑談と久しぶりにお会いするお顔、楽しく弾む会話を通して共通の悩みや出来事を語りあうことが出来たひと時でした。オンライン上で自由に出入り出来るのでリラックスした気分で参加してもらえたのも新しい発見でした。

コロナとの共存によってなかなか顔を合わせられない中、このような会を開催できたことをプラスとして受け止めた時間でした。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

大谷派第四組との懇談会について（葬儀に関する提言書について）

令和３年１０月２日安楽寺様に於きまして、大谷派は、智徳寺様、須磨様、松本様の３名と、本願寺派は札幌組石堂組長、横湯副委員長との懇談が行われました。

儀式内容の違いはありますが、概ね趣旨、内容には合意理解をいただきました。今後、連携し協議取り組みを進めていくことを確認しました。

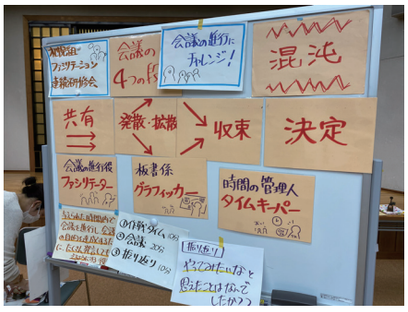
ファシリテーション研修会を開催

令和３年１１月８日と１８日、ご講師にNPOファシリテーションきたのわ　宮本奏さん、遠藤千尋さんをお招きし、ファシリテーション研修会を開催しました。参加がかなわなかった方にもファシリテーションについて少し触れていただけるようお伝えしていきます。

ファシリテーションとは、会議などの集団活動を円滑に進め、成果があげられるよう、段取り・進行・支援を目的とし、そのチームの成果が最大となるように支援することです。教区や組、自坊といった様々な場で会議がありますし、コロナ禍によってオンライン会議も増えました。会議がなかなか思うように進まないこともある中、この機会に共に学ぶ時間をもちました。研修を１回受けての実践というのは容易ではないこともあり、２回の連続研修会という形での開催です。

１回目は基礎編としてオンラインにて実施しました。まずこのオンライン研修会で大切にしたい約束事（グラウンドルール）は「やりながら学ぼう」「反応を伝えあおう」「慣れていない人にあわせよう」にすることを確認。ご講師の「失敗してもいいのでどんどん挑戦してください」という言葉が参加者の気持ちのハードルをグッと下げてくれたように思います。「気合が入っていたら画面にアップ、あまり準備できてないとかよくわからないけど参加してみた人は離れて小さく写ってください」というオンラインならではのチェックインをし、場の雰囲気が和んだところで研修が始まりました。

小グループに分かれ「困った会議と理想の会議」について自由に語りあう中で、「会議時間が長い」「脱線してしまうとなかなか戻れない」「意見が言いにくい」といった日頃参加者が抱えている悩みに共通するものも多く、どのような会議にしていきたいかが見えてきました。ファシリテーションの３つの役割「進行役（ファシリテーター）」「書記役」「時計係（タイムキーパー）」と会議の４つの段階「共有」「発散」「収束」「決定」を学び基礎編を終えました。



１回目の熱がさめやらないうちに迎えた２回目の実践編は札幌別院にて実施しました。最初にアイスブレイクを行い、緊張を和らげてからのスタートです。前回の振り返りののち、学んだ３つの役を割当て、テーマとゴールを決めて５名で模擬会議を行いました。その様子を他の参加者が観察し、終了後に気づいたことを皆で共有します。ご講師のお二人が進行役と板書役ということもあり、進行役の表情、目配りや手振り、頷き等によって参加者が発言しやすくなったり、議論が進行役を通して進んでいること、また板書を見ながら進めることで参加者が現状を把握しやすくなり会議が二転三転しにくいといったことを客観的に確認できました。それを踏まえ参加者も小グループに分かれて会議に挑戦。各役割が思うようにいかない場面もありながらも、それぞれが学んだことを意識しつつ、活発な意見など、やりとりをしている姿がみられあっという間の時間でした。各グループの感想を共有する中で「ゴールを書いて示すことで参加者が迷いにくい」「テーマは疑問形の方がゴールに向かいやすい」といったアドバイスもいただき、２回の研修会を終えました。その後の会議で板書やタイムキーパーを取り入れてみたというお話も研修部に届いております。

最後になりましたがご講師の「意見同士の対立は人同士の対立ではない」「会議を見ればその組織がわかる、会議の悩みは組織の悩み。どういう会議を作りたいかが、どういう組織を作りたいかに繋がってくる。」という言葉が強く印象に残りましたし、自ら参加したい会議を考えることによって気づかされるものがあるように思いました。

【ＷＥＢセミナー】青少年部・社会部、共催

２月１３日（日）１５時より１７時まで、オンライン（ＺＯＯＭ）にて、社会福祉法人光明童園理事長の堀　浄信氏を講師に迎えセミナーを開催しました。

「子どもたちの笑顔のために～児童養護施設の現場から～」というテーマのもと、１６名の参加をいただき、①子どもの貧困について、②児童養護施設について、③できること（取組と実践）の３点を中心にお話をいただきました。講師は本山の全国児童養護施設連絡協議会会長など、数多くの役職につかれ、子どもたちの笑顔のために日々ご活躍されている方であり、その経験を踏まえ、参加者に映像や音楽など、オンラインでの開催を感じさせることなく、子どもの貧困や児童養護施設のことなどを切実に伝えてくれました。セミナー後には、講師のお話に感銘をうけた参加者から、再び講師のお話を聞きたいとの声をいただき、次年度以降に機会をつくれればと考えておりますので、開催の際には多くの皆様のご参加をお待ち申しております。

札幌組　僧侶研修会（札幌組・研修部共催）

令和３年８月２５日、札幌組にて作成した「葬儀に関する提言書」を資料として講題を「葬送の意義を考える」と題し、札幌組寺院問題検討委員会委員長　上山知現氏（札幌組勝圓寺住職）を講師にお迎えし研修会を開催しました。

近年、葬儀の形式が大きく変わりつつある現状を鑑みて、浄土真宗に於ける葬送の儀式についてのあり方を僧侶自身が今一度学び、それを葬儀社の皆様にも周知することにより、葬送の意義を考える事に繋ぐことができるよう提案していく事を確認しました。

これからは、この学びを他宗派等とも連携し学びを深めることができればと考えています。参加者２２名

災害対策委員会　事業報告

この度、災害対策委員会の取り組みとして災害対策用に発電機（YAMAHA EF1800IS）を５台購入し、ガソリン携行缶（20L）を付け、各ブロック長の寺院にて札幌組災害備蓄品として管理、保管していただきます。備蓄寺院は以下の通りです。

第１ブロック　松雲寺様　第２ブロック　浄憲寺様
第３ブロック　瑞正寺様　第４ブロック　光圓寺様
第５ブロック　広大寺様
です。緊急時にはこちらにお問い合わせ下さい。

編集後記　組報なごみ「第 60 号」を発行いたしました。

新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、皆様と一堂に会しての研修会、会議等を開催することができず、お会いする機会が少ない事がとても残念でなりません。

しかしながら、新たな取り組みとして、Zoom 等を使った研修会を開催する事により移動に時間をとられることがないため、参加人数の増加などの利点も見られます。

今だからこそできる事への取り組みに、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。